

学 校 だ よ り
札幌市立西岡小学校

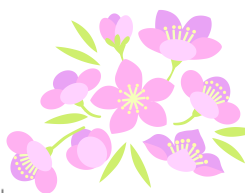
臨時号

令和8年9月11日(金)

NISHIOKA

西岡

豊平区西岡2条9丁目1-1
TEL 851-9673



<https://www.nishioka-e.sapporo-c.ed.jp/>

令和8年度全国学力・学習状況調査 本校の分析結果のお知らせ

本年4月に6年生を対象に実施された【全国学力・学習状況調査】について本校の調査結果をお知らせいたします。この調査は全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

札幌市では、「思考力・判断力・表現力」「基礎的・基本的な知識及び技能」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育む教育の推進を目指しています。本校でも、これらの視点を大切にした教育活動を進めており、今回の結果についても、全国の結果と比較・分析をし、本校の教育活動の充実に生かしていきます。

この調査結果は、児童の学力の特定の部分であることを踏まえ御覧いただくとともに、全校的な児童の傾向として捉え、御家庭での取組の参考にしてください。

全国学力・学習状況調査の内容（6年生対象）

① 教科に関する調査

国語・算数の2教科〔下の（ア）（イ）をそれぞれ一体的に出題〕

- （ア）身に付けておかなければ、のちの学年等の学習内容等に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- （イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

【国語】

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域 及び 内容】 〈知識 及び 技能〉 (1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率は、全国平均を上回っている。 (2)「情報の扱い方に関する事項」の平均正答率は、全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。 〈思考力、判断力、表現力等〉 A「話すこと・聞くこと」 B「書くこと」 C「読むこと」 の各領域の平均正答率は、いずれも全国平均を下回っている。	●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること ●参考文献の引用など、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること ●目的に応じて、必要な情報を見付けること	◎「知識 及び 技能」について、 ☆日常的に「読書」、本にふれる機会を増やすなど、学校生活の中で豊かな言語環境を整える。 ☆また、日頃より、他教科においても、各種データと文章を照らし合わせながら、読み解いたり、まとめて表現したりする学習スタイルを確立していく。 ☆上記とも関連し、データや資料を含め、内容を構造的に理解する“分析的な読み”に重きをおいた学習を展開する。また、国語の学習においてだけでなく、資料等も効果的に活用し、文章により自分の意見や考えを表現する活動を学習の中で多く取り入れていく。

【算数】

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域】 A「数と計算」の平均正答率は、全国平均を下回っている。 B「図形」の平均正答率は、全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。 C「測定」の平均正答率は、全国平均を下回っている。 C「変化と関係」の平均正答率は、全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。 D「データの活用」の平均正答率は、全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。	●数概念形成、特に概数の理解、それに伴う、数処理を適切に行うこと ●示された情報を基に、数量関係に着目して、条件に合う時間を求めること ●2変量の関係性を捉え、それらが表現されている図表や数式を選ぶこと ●グラフなどの図表の特徴と用い方を理解し、必要な情報を読み取ること	☆低学年からの数概念形成の積み上げを確実にを行い、特に直感的な理解が難しい単元の数理解のために、時数配分を含めた単元構成、授業展開の工夫を図る。 ☆学習に限らず日頃より、実際の生きた体験活動を取り入れ、その中で、数学（数量）的に事象を捉え、算数の学習基盤づくりを行う。 ☆2変量の相互関係を捉え、図表や式と関連付けながら、イメージ化、表現する活動を充実させる。 ☆国語科での見解と同様、他教科の学習においても、表やグラフといったデータを活用したり、表現したりする活動を積極的に取り入れ、日常的に数学的なデータの活用の素地、意識を育んでいく。

【児童質問紙調査】

全国の回答傾向と西岡小学校の傾向を比較し、本校児童の特徴をお知らせします。

《『人間尊重の教育』に係る質問》

※肯定的な回答割合

項目内容	質問項目	本校	全国
自己承認	「自分には、よいところがあると思いますか」	52.2%	43.6%
他者からの承認	「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」	43.3%	53.4%
	「先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところを伝えてくれましたか」	21.1%	27.5%
相互承認の態度	「学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか」	20.0%	39.6%
	「友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」	43.3%	52.7%
人間尊重の基盤	「人が困っているときは、進んで助けていますか」	36.7%	47.3%
	「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」	27.8%	33.9%

本校児童は、「自分自身のよさを見出す力（自己承認）」は全国的に見ても高い水準にあります。しかし、「先生や友達から認められているという実感（他者承認）」や「異質な意見を尊重し合う風土（相互承認）」には課題があります。

札幌市が掲げる「自立した札幌人」の育成には、自他を共に「自立した存在」として尊重し、共に支え合いながら生きる「共生」の思いが不可欠です。今後は、単なる個の尊重に留まらず、「人と違う意見を安心して言える場（対話の場の創出）」や「子どもの声を聴き、よさを具体的に価値付ける活動」を教育活動全体で意図的に展開していきます。

《『学ぶ力の育成』に係る質問》

※肯定的な回答割合

項目内容	質問項目	本校	全国
主体的な学習の構え	「課題の解決に向けて、自分から取り組んでいましたか」	22.2%	28.3%
	「自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」	30.0%	28.7%
対話による学びの深化	「友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりできていますか」	40.0%	43.5%
探究プロセスの実践	「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」	31.1%	35.5%
学びの転移・活用	「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じていますか」	27.8%	35.0%

本校児童は、「自分でやり方を工夫する」という個別探究の基礎力は備えていますが、「自分から課題に向かう意欲」や「学んだことを実生活に生かす実感」に弱さが見られます。

札幌市の重点である「子どもが『学びのコントローラー』をもっている状態」を実現するためには、「何のために学ぶのか」という目的意識（イントロダクション）を醸成させ、社会や生活との繋がりを実感できる「本物の体験」を積極的に取り入れ、学習活動を展開していきます。

《『さっぽろっ子自治的な活動』に係る質問》

※肯定的な回答割合

項目内容	質問項目	本校	全国
集団としての意思決定	「学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」	17.8%	35.2%
個人の行動への反映	話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるか	22.2%	31.3%
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか	28.9%	31.9%
	人が困っているときは、進んで助けているか	36.7%	47.3%

本校では、学級会での合意形成の実感が極めて低く、自分たちの力で集団を動かしているという手応えや実生活での具体的な貢献行動に課題があることが分かりました。

今後は「人と違う意見を否定されない」安心感を基盤とした相互承認を促しつつ、児童のもつ高い自己肯定感を強みとして、学級の課題解決や地域社会との関わりにおける自己決定の場を充実させることで、集団や社会をよりよくするために自ら決めて動く「自治の力」へと転換させ、育成を図っていきます。

《『ICT の活用』に係る質問》

※肯定的な回答割合

項目内容	質問項目	本校	全国
活用スキル	「インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますか」	63.3%	59.4%
	「情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか」	23.3%	32.8%
	「プレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか」	47.8%	44.9%
学習場面での活用	「総合的な学習の時間で、PC・タブレットなどを使って情報を集めたりまとめたりしていますか」	33.3%	40.0%
	「家庭学習の課題として、PC・タブレットなどを使用して英語の音声を聞いたり練習したりしていますか」	11.1%	6.8%
生活の中での利用	「SNS や動画視聴を 1 日当たり 4 時間以上しますか」	18.9%	21.9%

本校の児童は、「情報の検索」や「プレゼン資料作成」「英語学習」において ICT を活用する意欲と基礎スキルを備えています。しかし、授業全体での活用頻度が低く、札幌市が掲げる「ICT の特性（情報の取り扱いの簡便さ、時間や空間を超えた共有など）を活かした学び」を十分に享受できていない可能性があります。

今後は「調べる」段階から、「思考ツール（図や表）を使って自分の考えを整理する」段階、札幌市の目指す「学ぶ力」の育成 に直結させられるような活用レベルに引き上げていきます。